

各村で帰還難民さらに急増

カチャラ・コーティの灌漑を急ぐ

冬が去り、短い春も飛び越えて、急に初夏の陽射しがやってきました。トルハム国境は先週開きましたが、難民送還も再開です。このためか、作業地のカチャラ、コーティ、タラーン、ベラの各村で、更に著しい人口増加が起きています。しかし、州が計画した「カチャラ難民コロニー」は棚上げになっているようで、国連や行政側の大きな動きは見えません。

PMSとしては、帰農人口を増やすのが唯一かつ最善の策と見て、灌漑網整備を急いでいます。また、失業者を吸収すべく、人海戦術を採用したことは先に述べた通りです。作業速度はやや落ちますが、掘削機1台分のレンタル料が40名、ダンプカー1台が20名の日当に相当します。

帰還難民の急増は事業の進行に大きく影響しています。帰郷農民が争って荒蕪地を整地し始め、ルート決定（護岸線と主幹水路）を早急に迫られています。みな空腹の家族を抱えて必死なので、これは仕方がないです。事態が予測以上に急展開し、警備態勢を強めています。

2017年度事業については、以下の通りです。

1. ダラエヌール診療所（例年通り）
2. 共同事業（マルワリード II）。用水路 1.5 km地点までの完了・主要地域の仮

灌漑網整備。必要なら自己資金で補助プロジェクト。

3. 既存水路（カマ I、カマ II、ベスード I）の砂吐き設置
4. 訓練所の建設（FAO 関連事業）
5. ガンベリ主幹排水路の完成

以上が主なものです。

カシコート方面は、全て延期です。治安だけでなく、この状態で主力を遠隔地に分散するのは負担が大きいです。

PMSの仕事は全体から見れば微々たるものですが、ジャララバード北部一帯、とくにクナール河左岸の安定は、この無政府状態で小さくないと考えています。なお、大使館無償資金によるナツメヤシ園は一応終了、FAO関連事業が終われば更に書類上の負担が減ります。この負担は小さなPMSにとって、管理上大きく影響します。現地との密な連絡を続け、手引書の翻訳など、よろしくご協力下さい。

暗いニュースと重苦しい雰囲気の中、現事業はこの地域にとって、唯一の希望といえるものです。変わらぬご支援に感謝します。

2017年3月31日 記

増水のクナル河とマルワリード II 堰。水位は水門床面から 108 cm、低水位期（2 月）より、約 30 cmの上昇。砂吐きを通過する主な流れは、河道洲に沿って進み、河道③に向かう。2017 年 3 月 29 日（ファヒム技師撮影）



今回の堰は今までになく完成度が高く、職員たちの自慢になっている。案外みんな凝り性になり、次々と案を出してくる。それほど仕事が魅力的になっているということだ。堰前縁の越流水深は約 25~35 cm、湾曲形が奏功して、今のところ対岸への影響はほとんど見られない。2017年3月30日



砂吐き（＝可動堰）部分の現在。矩形の長さだけ越流長も伸びるのが分かる。たたき部分は、まだ改良の余地がありそうだ。2017年3月30日



チャルハを装着すると、やっと水門らしくなる。この形はみんなの頭に焼き付いていて、落ち着くのだという。ほぼ定式化し、やかましく指導しなくとも、作れるようになった。チャルハ装着の発案者は故鬼木さんで、元ワーカーの川口が板を改良、現在に至る。2017年3月30日



護岸と柳枝工。石出し水制を 50m 間隔に置き、流れの緩やかなところに柳枝工を施す。この形がほぼ定着した。2017 年 3 月 30 日

